

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年11月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホームこころ
所在地	鹿児島県始良市加治木町西別府2820番地3 0995-63-6300
自己評価作成日	平成25年10月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名しか受け入れることはできませんが、入居者の方々が「ここでの生活は楽しい」と思って下さる事が出来る様に主体は何かということを考えられるようにケアについての研修を年間を通じて行い、「聴く」「考える」の実践をしています。食事は食べたい物をみんなで考え、それぞれが個々できることを活かし、食事作りに参加し、食べることへの意欲につながっています。参加できない方も、献立作りや他の家事で活躍されています。また、できない人への思いやりや家事にまつわる会話も増え、みんなで楽しむ日常会話が増えています。また、不眠等や暴言等に向き合い、入居者にとってどうなのか、介護者にとっての問題ではないのか等話し合うことで視点が変わり、ケアに反映されています。地域の方々に、知恵を頂きながら、小さな畑をつくっています。家の中から畑を見て、季節を感じ、時間を感じています。畑の作り方や種のまき方、苗の植え方、肥料のやり方、水のやり方、草の取り方、収穫の時期や収穫の仕方、それを使っての調理法など、入居者の知恵や経験を語ってもらうことも多いです。やってみて、現実を実感される入居者もおられます。家族の方も関心を寄せていただけます。入居者の1ヶ月の様子を毎月、お知らせしています。入居者の現実や今の楽しみ、外出の様子、できなくなった事などお知らせする事で、一緒に時を過ごして頂いております。困難になった事には一緒に考えていただく様にすることでご家族にグループホームでの生活を「迷惑をかけてすいません」と思っていないようにと考えています。ご家族も皆で生活に参加、出来る様にしていきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、市郊外の自然環境に恵まれた閑静な農村地にある。周囲には民家が多く、散歩の際には地域住民と挨拶や会話を楽しむなど、ふれあいながら生活できる環境にある。
- ・防災の一環として地域住民も緊急連絡網に登録するなど、協力体制ができています。職員全員が普通救命講習を受け、事故発生時にも備えている。
- ・事業所へ地区住民が気軽に立ち寄り、野菜を差し入れたりお茶を飲みながら介護や認知症の相談をする等、地域との良好な関係が築かれている。
- ・同法人に訪問看護ステーションがあり、医療連携が取れている。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、研修等への出席も奨励している。職員は、自らの資質向上を目指し、ケア対応の向上に意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	こころからの笑顔はどの様な時に表出するのか、ここでどの様に生活していくことが笑顔を生むのかケアに重ねて考えながらケアの実践をする様にしている	地域との関連性を重視した独自の理念を作り上げている。ミーティングや事例検討会・職員会議などを通して振り返り、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や自治会参加により、自治会の方々と交流があり、野菜などの作物の作り方や散歩時や行事の際は声かけをいただいたり、認知症介護についての相談を受ける	町内会に加入し、地域の行事や清掃に積極的に参加している。散歩の際には挨拶や会話を楽しんでいる。小学生との交流やボランティアの受け入れなども行っている。住民からの認知症相談にも対処し、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議等で認知症の勉強会を家族と共に行った。相談の際は説明を行うまたは、必要な支援が受けられるサービスの種類等の説明を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中の入退所の説明時や、事故報告、ヒヤリハット報告の際に事例をだし、その意見などを求めている	会議は定期的に行われ、事業所の現状や報告、活動状況、行事予定、外部評価の報告や取り組み状況、地域からも意見や情報をもらい、充実した内容でサービスに反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	理解不足や判断に困ること、不明なこと等市町村から助言や情報提供を受ける事が多い	市の担当者とは、困難な事例相談や情報を交換してアドバイスをもらっている。市主催の研修会などに積極的に参加している。また福祉担当者とも細かに連携を図る等、日頃から連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに努めている。例えば、靴を履いて寝る等の行為の際、靴の除去をするのではなく、どうすれば、靴を履かずにゆっくりと休むことができるかなど、カンファレンスで話し合う	身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に事例検討会や勉強会を行い、共通認識を図っている。昼間は玄関の施錠はせずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアの際に行動障害など出現の際に自分たちが気がつかない内に身体拘束や虐待になっていないか意識的に話し合っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護については学ぶ機会はあったが実際には対象が現在ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族に説明し、文章で説明または来所の際に説明を行う。また、同意を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の際に説明したり、献立などの要望等は献立にいつも反映している。私物の衣類の整理間違いがあるので職員間で対策を話あっている	利用者からは日々の関わりの中で思いを聞いている。家族からは電話や面会時・行事参加後はよい機会として言葉をかけて意見を聞いている。家族の要望に応じ献立に反映させる等、日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見や提案があればミーティングや個人的に提案を受けている。できる範囲で解決策を対応している	管理者は申し送りやミーティング等で意見や提案を聞いたり、個別に相談事にする等、適切にアドバイスをしている。職員の食費や職員体制について検討する等、意見の反映を図るよう心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	喫煙者の喫煙場所がない為外もしくは換気扇の下とみんなで決定した。また、その喫煙時間をどの様な時間にと職員間で話し合うようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個人の認知症についての力量やケアの実際についてレポートや発言、実際のケアから把握している。また、カンファレンスで発言していく事で考えるという事を持ってモチベーションが高まるように心がけてはいる</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2事業者間で外部講師を招き勉強会を1年間を通して行っている。また、グループホーム協議会の研修も積極的に参加しサービスの質の向上に努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話や、ご家族の話をしてできるだけ多く聴く様になっている。話の中で気づいた事についてはこちらから何うようにしている。話をした良かったと思っただけのように十分に話を聴いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期にはご家族に何う事が多いためご家族の不安などできるだけ話ができるよう、引き出すことができるように傾聴し援助のためのコミュニケーションが図れるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	分かりうる情報の中で必要なサービスを見極め、ご家族や本人に提示し、求められているものか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が主体で生活できるように支援できるようにはしている。どの部分の支援が必要なのか見極めができるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の中の一員でい続けられるように普段のグループホームでの生活や現在の状況が理解出来る様、毎月の生活状況書をお知らせし介護を共有していただいている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>病院や家族等これまで過ごしてきた場所と疎遠にならない様に家族に協力をもらいながら受診や外出、面会を受け継続している</p>	<p>地域出身の利用者に地元の馴染みの友人や知人の面会があったり、行きつけの理美容院などとの関係を継続できるよう支援している。家族の協力で一時帰宅や墓参りの外出も行っている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>記憶障害の為に他入居者が理解できず、攻撃する様な場合があるが、攻撃する方のケアと攻撃させるような環境ができるだけ回避出来る様に支援している。どちらも疎外されないように支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族や本人から相談があった場合などは対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の暮らし方や思いを言語化した時に、それが私達、介護者の意向や思いになっていないか、都合の良いように解釈していないか等検討し把握に努めている。	利用者の思いや意向がどこにあるか、会話や表情やそぶりを見逃さないように、職員は意識を持って利用者向き合っている。把握が困難な場合、家族からの情報や利用者の視点に立って職員間で話し合い、本人中心に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際や、家族が面会の際、日常生活の中で会話をする時に話題にし、知るようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員から日常生活の会話や記録の中から本人の有する力や現状把握に努め、また、受診の際に現在の身体状況を知るようになっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が何に苦しみ、どの様に過ごしたいと思っているのか、本人の言葉だけでなく行動や状況を記録や面談から作成する様にしている。また、家族はどの様に考えているのか、共に介護に参加出来る様に考えている	本人や家族の意向をくみ取った上で介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、必要に応じて主治医の意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行っている。職員間の記録で情報を共有しケアに生かしている。実践の結果の反応が以前は介護者の客観的判断で記載されていたが、本人が述べていることや行動の記載が増えてきて本人主体で反応が理解出来る様になった		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人が対応できない場合、経済的な負担が生じる場合は説明を十分に行い、支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア活動の方々に大正琴や絵手紙等の支援を頂き楽しんでいる。また、地域のバザーの紹介をいただき参加したり、校区運動会へ行き、顔見知りの関係になり、会話もできて楽しんでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心配事などがある場合は、家族やかかりつけ医に報告し受診を行い治療を受けている。また、必要なら紹介を受け、他科受診を行っている	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診ができるよう支援している。受診同行後は随時家族に報告している。訪問看護事業所との連携により利用者の健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の看護師には、身体状況の変化などがあつた際は報告し助言を受けている。また、看護師に小さな変化でも報告し受診へ繋げている。入院へ至らなかつた事例も多い		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員や医師、外来等と情報交換や、グループホームでのケアの情報提供書等を提供し、また、退院時指導を受け、病院とグループホームでの生活で大きな環境の違いが無い様に連携している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師、訪看護や職員と本人の思いを一緒に考え、どうしていくことが本人が生きていくことなのか、食べるという事はどういうことなのか、眠るという事はどういうことなのかカンファレンス等で本人主体にケアできているのか取り組んでいる	本人や家族とよく話し合うとともに、重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し同意書をもっている。また状況に応じて医師の指示のもと、家族と繰り返し意思を確認している。職員全員がその方針を共有し、既に看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習は全員が受けている。定期的には行ってはいないが、転倒、誤嚥等の際や、急変の際には事例について振り返りを対応ができるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々に災害が起こった際については応援をいただけるように1件ずつ説明をし承諾をいただいた。職員全員が避難訓練を体験し実際に想定し真剣に取り組んでいる。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署の指導のもと実施している。緊急連絡網に地域住民も登録し協力体制が築かれている。避難場所も決まっている。スプリンクラーも設置され災害時の水や食料等の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関することや物忘れに関する事など、言葉かけや対応には注意している。配慮にかけられる場合など、カンファレンスを持ち、振り返り支援に役立てている	排泄・入浴に関する言葉かけには注意し、利用者が興奮したり意外な反応を示した時は、職員が模擬利用者となって再現しミーティング時など勉強会を行っている。日々の関わりの中で、利用者の人格を尊重し、心情を大切にケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴の判断や食事の判断等声かけの際に自己決定出来る様に声をかける。また、日常の会話の中で本人の思いが出た時などは実現できるように家族に伝えたり、現在できるか検討する		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備や、洗濯物干しやたたみ、整理、入浴の準備等あるが、その日の体調により参加してもらっている。起床時間や横になりたい時や一人になりたい時は本人の時間で過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	「やんかぶったな」等の発言が出ると美容院へいっている。ご家族が面会の際に行かれたりする。朝のケアの際に櫛などの準備や衣類等声をかける。また、衣替等を家族に依頼している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時々によって献立作りから買い物、食事の準備、調理、片付けまで一緒に得意分野で行っている。その際に家での食事等や行事の事を話さる。会話が多い	利用者の嗜好に配慮した献立を工夫し、準備や後片付けを職員と一緒にしている。利用者とともに、味噌や梅干し・干し柿作り等をしている。行事食や外食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によりその内容は違う。献立をたてる際に入居者に材料など旬の野菜やタンパク質の偏りが無い様に支援する。御茶等の際は声をかけに努めている。食事量で食欲の確認をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に応じて毎食後支援している。声かけのみ、義歯を外して完結するまで等支援は個人によって異なる。毎月歯科に通院し指導を受けている人もある		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を意識して支援している。起立や座位が自分でできるように手すりの配慮や排泄パターンを知り、誘導時間に声をかける等の支援をしている。個々のどこに支援が必要か職員が理解している	日中はトイレでの排泄を重視して排泄の自立を目指している。個々のパターンを全職員が把握し、どの支援が必要か、どんな時にうまくいかないか自分たちがその人と同じ行動動作をして感じ取ることもして、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を献立に取り入れる。水分を多くとる。歩行等をし運動を促す。楽しい気分で過ごす等ができるように配慮する。咀嚼を意識した食事を配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の時間帯は14:00～15:30に設定してあり1日おきに入浴している。入浴したい時は希望に添っている。また、入浴した方がよいと判断した際は時間に関係なく支援している。入浴の準備は一緒に行っている	隔日の入浴であるが希望があればいつでも入浴できるようにしている。年1回は温泉に行き、ドライブ途中で足湯を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の際は眠れる時にゆっくりと休めるように支援している。また、居眠りが多い際や昼食後、体調不良の際は言葉掛けをしゆっくり自室で休めるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬や変更薬等医師に説明を受けた事を記録やミーティングで本人や職員と共有している。また、薬品情報綴りを使用している。家族へも家族への毎月のお知らせの中で伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食べたい物を食べられる様に献立を入居者と一緒につくっている。また、食事作りも、米を仕掛ける、野菜を切るなどしていただく。また、洗濯物干し、たたみ、整理等一緒に行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	入居者から希望が少ない、病院受診や買い物の際はお声かけする。また、行きたいと言われた際はご家族に伝え、ご家族と外食やドライブ、外出されご家族共々とても満たされて返って来られる。医師の協力も有り、旅行に出かけられた家族もある	日常的には、近隣を散歩したり、病院受診時に買い物をするなど戸外に出かけられるよう支援している。また計画を立てて地域の運動会・バザー等のイベントや花見等に出かけている。家族の協力で外出や墓参、外泊も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>2人が実際に財布を所持しているが自分で持っていることはよく忘れていて。大抵の方は預り金としてあるが「お金をもっちょらんで」と買い物の際は言われるが、説明をし買い物する</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>県外の家族の方へ絵手紙などの作品が出来た際には一筆添えてだされたり、贈り物やはがきの返事を出される支援を行っている。電話は難聴な方には代行で内容を聴き伝える支援をする</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾る、外気が入るように午前中、清掃の際は外気の入れ替えを行う、寝具を干すなどの支援を行う。トイレは職員が意識的にトイレチェックを行い、不快な思いをされないように配慮している。南側入口を開けておくことで景色により季節の会話が増えている</p>	<p>共用空間は換気や採光に配慮し清潔で明るい。壁には行事の写真等が展示されている。窓の外には畑が広がり、近隣の人々がホームに立ち寄りお茶飲みしたり、農作物の差し入れ等、楽しい場所となっている。ソファがあり、のんびり過ごしている。窓からの景色を楽しみながら、居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間スペースの椅子の配置や、座られる場所の工夫をしている。また、ゆっくりされたい時は声かけをして自室でゆっくり過ごしていただけるような配慮をしている</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を壁に貼ったり、位牌を置いたり、花を飾る等、大事にしてこられた事を継続できるよう支援している。また、布団や衣類は家で愛用しておられた物を継続して使用して頂いている</p>	<p>ベッドやタンスは備え付けであるが、寝具や写真・位牌等、それぞれ自分の思い入れのあるものを持ち込み、暮らしている。訪問者へ自分の部屋に案内し自慢の部屋となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗面台は車椅子でも使用できる物を設置した。手すりを設置し歩行が安心して出来る様にした。浴室は分割動作をしながら浴槽に入れるようにした。トイレは服の着脱がしやすい様手すりが設置した。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない